

東京電力福島第一原発事故に伴う原子力災害。

当たり前のように過ごしていた日常。当館の展示は、それが災害によって一変し奪い去られていくことを語りかけます。

—— 日常を見つめなおす ——

東日本大震災・原子力災害伝承館へぜひお越しください。



研修プログラム（オプション）

20名以上の団体向け。要事前予約、入館料と別に研修料金が必要です。

フィールドワーク 所要時間:60分

内容：双葉町や浪江町の被災地をバスで巡ります。複合災害や復興の状況を理解できます。

研修語り部講話 所要時間:40分

内容：語り部が自身の体験に加え、震災当時や原子力災害、復興の概要について語ります。

場所：1 階研修室等（別途利用料が必要）



東日本大震災・原子力災害伝承館マップ



【双葉駅】からシャトルバスで約6分（約2.7km）

仙台から	常磐自動車道経由一般道	約80分	常磐双葉IC	一般道約7.5km	伝 承 館
仙台空港					
仙台駅	常磐線特急ひたち	約80分	双葉駅	一般道約2.7km	
東京から	常磐自動車道経由一般道	約240分	常磐双葉IC	一般道約7.5km	
東京都内					
東京駅	常磐線特急ひたち	約190分	双葉駅	一般道約2.7km	

東日本大震災・原子力災害伝承館 利用案内

〒979-1401 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39

開館時間	9:00～17:00（最終入館16:30）
休 館 日	火曜日・年末年始（12/29～1/3）
入 館 料	大人600円 小中高300円 大人団体（20名以上）480円 小中高団体（20名以上）240円
研 修 室	最大90名収容（要事前予約、有料）
駐 車 場	大型バス10台、普通車111台 無料

お問い合わせ先
公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構
東日本大震災・原子力災害伝承館



電話0240-23-4402 FAX0240-23-4403
電子メール archive@fipo.or.jp
HP <https://www.fipo.or.jp/lore/>
掲載内容は2025年4月1日現在のものです。

〔日本語〕

福島県 Fukushima

東日本大震災・原子力災害伝承館

The Great East Japan
Earthquake and Nuclear Disaster
Memorial Museum

みらいへの教訓

あの日からの経験



津波で変形した消防車



原発事故前に双葉町に掛けられていた原子力広報の文字パネル（レプリカ）



伝承館外観

2011年3月11日に発生した東日本大震災と

未曾有の複合災害を経験し、復興への途を歩んできた福島
の記録と記憶を防災・減災の教訓として
未来へつないでゆく。

館内語り部講話 所要時間:40分

個人の来館者向け。毎日4回実施しています。

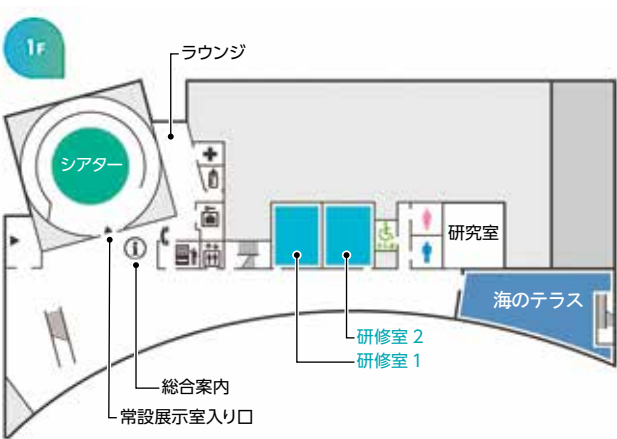
内容：地域住民が語り部となり、被災体験や想い、災害への備えなどを語ります。語り部の年齢や被災した場所などにより、語る内容はさまざまです。

時間：10:00～、11:15～、13:15～、14:30～

場所：2階ワークショップスペース

定員：27名（先着順、予約不可）

料金：入館料だけで聴講いただけます



原子力災害を中心とした展示や語り部講話を通じて、震災の記録と記憶を教訓として防災・減災に役立てる。

見学の所要時間 ▶▶ 60分～
館内語り部講話 ▶▶ 40分

東日本大震災・
原子力災害
伝承館

The Great East Japan
Earthquake and Nuclear Disaster
Memorial Museum



プロローグ

地震・津波・原子力発電所事故発生当時の映像とアニメーションを効果的に組み合わせた映像を大型スクリーンに映します。基本理念をもとにした「災害の自分事化」、「福島経験と教訓の未来への継承」というメッセージを来館者に伝え、震災のこと、事故のこと、復興のこと、これからの未来のことについて考える入り口としての役割を担います。福島県出身の俳優、西田敏行さんがナレーターを務めています。



1. 災害の始まり

平穏な暮らしを一変させた地震と津波、それに続く原子力発電所事故。複合災害の発生を受け、人々はどうのように行動したのか。震災前、震災当時、震災直後の状況を時系列でたどり、さまざまな資料・証言・事故調査の記録から、複合災害の始まりを克明に描いていきます。



東日本大震災・原子力災害関連年表



地震と津波の記録(映像)



津波で流されたランドセル、
鍵盤ハーモニカ

平穏な日常が複合災害によりどのように変わってしまったのか、県民の想いを、証言と資料を組み合わせで発信します。特に、広域的・長期的な避難、あらゆる分野への風評など、原子力災害特有の事象を中心に伝えます。

3. 県民の想い



川内村に避難した富岡町民が
黒板に残したお礼のメッセージ



2. 原子力発電所事故直後の対応

錯綜(さくそう)する情報、転々とする避難生活。これまで経験したことのない原子力発電所事故発生直後の状況やその特殊性を、避難などの様子に焦点を当て、さまざまな資料や証言などをもとに振り返ります。



1週間後の事故の実像(映像)



警戒区域から避難せずに残っていた人が
書いた記録



4. 長期化する原子力災害の影響

除染(放射性物質の除去)、風評の払拭、長期避難への対応、健康に関する取り組みなど、原子力災害による長期的で困難な課題に、福島県の人々がどのように対応してきたのか、タッチパネル解説や資料を通して伝えます。



甲状腺検査に使用したエコー機



米の全量全袋検査機模型

5. 復興への挑戦



災害対応ロボットの「MISORA」

逆境を乗り越え、復興に挑戦する福島県の姿を紹介します。廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想などの取り組みから、県民が困難に立ち向かい、復興へ向け力強くチャレンジする姿を発信します。